

平成23年度
市民活動支援事業

成果報告書



霧島市

は じ め に

少子高齢化の進行やライフスタイルの変化等に伴い、市民ニーズも複雑・多様化しており、国・地方ともに厳しい財政状況の中、全ての公共サービスを行政のみで提供するのには困難な状況にあり、市民と行政が共生・協働により公共サービスを提供する仕組みが求められております。

このような中、本市においては、平成20年3月に「第一次霧島市総合計画」を策定し、政策の一つに「共生・協働のまちづくり」を掲げ、市民参加によるまちづくりを推進しており、平成22年3月には、その指針となる「霧島市共生・協働に関する指針」を策定し、行政だけでなく地区自治公民館・自治会やボランティア団体、NPO団体などが相互に信頼関係を築き、それぞれの特性や個性を活かしながら、連携・協力し、地域の様々な課題の解決や必要なサービスの提供を行うこととしております。

その一環として、平成20年度から、市民活動団体が行う公益的・公共的な活動に対して、その経費の一部を補助する市民活動支援事業に取り組んでいるところです。

平成23年度は、17団体がこの制度を活用し、様々な活動に取り組み、自然環境の荒廃の広がりに対する環境保全を目指した活動や、これからの地域を担う子どもたちへのまなざしを強く意識した活動、忘れつつある地域文化の発掘とそれを活用した地域活性化のための活動など、本市における喫緊の地域課題に取り組む素晴らしい活動が行われております。

この「平成23年度霧島市市民活動支援事業成果報告書」は、これらの事業の活動内容や成果等を取りまとめることにより、本市における市民活動団体の活動を広く市民に知っていただくとともに、市民活動の参考として活動いただくことにより、「共生・協働によるまちづくり」が本市全体に更に広がることを期待して作成したものです。

目

次

◆ 平成23年度霧島市市民活動支援事業 実施団体成果報告

1	特定非営利活動法人『人権を守る会かごしま』	1
2	水の会	3
3	霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会	5
4	日当山会	7
5	特定非営利活動法人 霧島食育研究会	9
6	きりしま・国分子ども劇場	11
7	清水ほたる愛好会	13
8	特定非営利活動法人 霧島サンバイオ	15
9	特定非営利活動法人 霧島自然菜園倶楽部	17
10	ニコニコ会	19
11	よもぎの会	21
12	エコミュージアム福山	23
13	特定非営利活動法人 隼人シニアネットきずな	25
14	新現役の会	27
15	霧島心肺蘇生の会	29
16	駅前ホテル会	31

〈 参 考 〉

・ 平成23年度 霧島市市民活動支援事業募集要項（抜粋）	33
・ 平成23年度 霧島市市民活動支援事業応募・採択内訳	34
・ 平成23年度 霧島市市民活動支援事業 実施結果	35

人権教育・啓発活動

＜特定非営利活動法人『人権を守る会かごしま』＞

事業費：280,987円

市補助金：140,000円

目 的（背景・課題）

2010年12月18日に、霧島市と共催による「人権フェスティバル2010」を開催した。福岡県在住のジャーナリスト稲積謙次郎さんに「人権『わたし』からの出発」と題する講演をお願いし、出演者からは「もっと多くの人に聞いてほしかった」等の評価を受けた。

本事業が市民に定着していけば、市民の人権問題に対する関心が高まり、日常に潜む地域の人権問題が浮かび上がり、その解決に向けた活動が展開されていくものと考えている。

そこで、今年度は、昨年度の成果と課題を基に「人権フェスティバル2011」を開催し、その定着を図る。そして、本事業を継続しながら人権をキーワードとする地域ネットワークの構築をめざす。

事業内容

- 5月 7日 総会
- 6月14日 人権フェスティバル2011
第1回準備会議
- 7月14日 人権フェスティバル2011
第2回準備会議
- 8月 9日 人権フェスティバル2011
第3回準備会議
- 8月30日 人権フェスティバル2011
第4回準備会議
- 10月15日 人権フェスティバル2011
第5回準備会議
- 10月29日 人権フェスティバル2011
- 2月18日 理事会
- 3月 4日 三役会

人権フェスティバルに向けて、総会を経て、会員を中心に準備会議を重ねた。落語家の露の新治さんを講師に招き、市民に、より親しみやすい「高座」という形で啓発活動を企画した。「新ちゃんのお笑い人権高座」と銘打って、いじめや同和問題、人種問題などあらゆる人権問題について、笑いを通して楽しく学べる会になるよう企画した。

人権フェスティバル2011

～差別のない社会をつくるために～

日時；2011（平成23）年10月29日（土）

14：00～16：00

会場；霧島市国分シビックセンター（2F多目的ホール）

お誘いのことは 今年度の“人権フェスティバル2011”は、全国を東奔西走しておられる珍しい“人権専門の落語家”【露の新治】さんをお招きします。 「人権」と聞くと、何かむずかしいイメージする人が多いのかもしれませんが、リラックスして楽しみながら学べるということも知ってほしいと思って企画しました。 和気あいあい、ご家族連れ、友人同士で誘い合っておいで下さい。 お待ちしております。	絆
--	----------



主 催：特定非営利活動法人「人権を守る会かごしま」
後 援：霧島市 霧島市教育委員会 霧島市PTA連絡協議会 霧島市社会福祉協議会
霧島市民生委員・児童委員協議会 霧島市自治公民館連絡協議会 霧島市保育協議会
霧島市商工会 鹿児島県人権・同和教育研究協議会 始良地区人権・同和教育研究協議会
霧島市人権・同和教育研究協議会 鹿児島県教職員組合始良・伊佐地区支部
鹿児島県高等学校教職員組合始良・伊佐支部 連合始良伊佐地域協議会
始良伊佐ブロック平和運動センター 部落解放同盟鹿児島県連合会
ハンセン病問題市民会議鹿児島 狭山事件を考える霧島住民の会
事務所：霧島市溝辺町有川503 ☎ 090-2711-1800（加来）
事務局：有川 康 英 ☎ 090-1925-7247
賛助金：500円
駐車場：国分シビックセンター周辺の市営駐車場（無料開放）

事業の成果

今回は、市民に親しみやすい高座という形で啓発活動を行った。参加者からは、「人権について楽しく学ぶことができた」という感想を多くいただき、今回の企画の目的は十分に達成できたと思われる。「人権」という一見堅苦しくとられがちなものを、なるべく市民に身近に感じてもらい、そして大切なことであることを考えていただけたと思う。そういう点から市民への人権意識の高揚が図られたと思う。当日受付で148名の来場であった。昨年度の第1回が90名であったので、活動の成果は上がったものと判断する。



自己評価

1. 事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
2. 改善すべき課題
フェスティバル実施の発信の工夫は必要と思われる。現在は会員の範囲で人のつながりを広げているので、今後は広く市民に理解を広めていく具体案を検討したい。それでも予想以上の賛同は得られた。
3. 予算執行
多少の変更があった。
昨年度と違い、会場使用において変更があったため支出を計上した。また、講演中の通訳、司会者等の準備が当初不足していた。事務関係については非常に流動的で、確定しにくい部分もある。
4. 今後の展望
3回目となる取り組みについて、内容は「子どもの人権」に関することで、講師は熊本の大学の「子どもの権利条約」に詳しい方で準備を進めている。内容的には教職員や親、子どもとかかわる仕事の方に参加していただけるよう情宜に努力したい。行政側でも「人権」について取り組んでおられるので、協力体制を検討していきたい。
5. その他
「フェスティバル」と銘打って準備を進めているが、講演が中心になっている。内容は悪くないが、展示や体験学習など、1つでも活動が広げられ、「人権意識」が広く市民に広がるような工夫を模索したい。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人
『人権を守る会かごしま』
〈代表者〉 加来 宗暁
〈設立日〉 平成22年8月2日
〈会員数〉 45人
〈主な活動内容〉
2010年12月
人権フェスティバル2010開催
〈連絡先〉
所在地 〒899-6401
霧島市溝辺町有川 503
TEL 0995-59-2321
FAX 0995-59-2924

竹山ダム周辺の環境整備と文化活動

<水の会>

事業費：445,181円

市補助金：140,000円

目的（背景・課題）

旧溝辺町全体を見渡したふるさとの「水」研究を目的にスタートしたが、竹山ダム完成以後その周辺の清掃美化を軸としながら、過疎地域とされる竹山集落の力を借りつつ、田園地帯の活性化に寄与する研究実践団体をめざすようになった。本年度を一応のまとめの期としたい。

事業内容

郷土史研究に端を発している水の会、その原点にそって、山城調査を継続し、また、今期は新たに環境問題に関連する「竹」の研究会など意欲的な活動を進め、内容を高めることができた。

環境整備としての草刈作業（ゴミ拾いを含む）は、夏（7・8・9月）と冬（2月）に実施した。一方、昨年実施の「水に感謝の夕べ」灯籠祭は集落内に火災が発生したため、今年は中止し、代わって「七夕講演会」と称する竹研究会を西郷公園で開催、最後は山城探訪でしめくくった。当初予定では秋であったが、年明けの3月に延期したのは、講師との日程調整による。なお、環境美化作業のうち、竹山ダム周辺の草刈りについては、地元建設業界関係者によるボランティアグループが自主的に実行されたので、水の会としては、山城内とくに由来碑建立場所や竹山ダム下流、集落近くの河川に広げている。イベント開催にあたっては新聞やケーブルテレビ、地域情報誌等で広報したため霧島市内外から約50名の参加があり、仲間作りができた。



参加者記念撮影



記念碑完成

水の会事業
「大隅国 高松城・竹山城 由来記」
記念碑建立 植樹
(2012. 3. 7)

第一部 三木先生の講話
第二部 山城探訪（ウォーキング）



記念植樹（ソメイヨシノ）



三木先生の講話
(竹山公民館にて)



山城探訪（ウォーキング）



三木先生の解説

事業の成果

竹山ダム周辺に残されている竹山城、高松城について、専門家（三木靖氏）の検証が進み5,000分の1地形図に詳細な縄張り図ができたので両城を見渡せる「竹山口」付近に地図入りの由来碑を建立した。解題を折り込んだ資料等も揃えている。三木氏は「南九州の山城の中で最も顕彰が進んでいます。」と評価された。探訪には、霧島市文化財保護審議会（前田義人会長）はじめ、竹山集落出身者も加わり「ふるさと興し」への認識を共に深めていただけた。高松城内は明治10年8月31日の西郷隆盛軍城山帰還路（ルート）でもあり、将来、霧島市観光スポットになりうる可能性も秘めている。城内一周ルート復元という形で環境整備が出来たことを水の会としても喜んでいる。



自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2. 改善すべき課題

当初の計画では、過去3年間の記録を加え、本会設立30周年の記念誌を作成する予定をしていたが、事業としては認められず「山城案内（由来）」碑の建立と変更した。

3. 予算執行

多少の変更があった。

活動地域の集落内で火災が発生したため、当初予定していた、灯籠祭「水に感謝の夕べ」は中止し、代わって研究成果の講演会等を開催した。

4. 今後の展望

過去3年間に蓄積してきた仲間づくりの成果をふまえ、当水の会の設立趣旨にそった調査研究を続け、社会貢献に努めたい。

5. その他

ふるさとの水辺や森に500年以上昔の山城が存在していることを専門家の手で明確にできた。文化財の調査・保存の事例になりうると確信する。

0969
ん080(1777)
自持参。水の会の二見さ
運動靴、飲み物などは各
よる講演もある。無料。
名譽教授の三木靖さんに
めぐる。鹿児島国際大学
前。中世の山城である大
隅国高松城の城跡などを
後1時、霧島市の貴水峽
◇高松城探訪 7日午

南日本新聞
2012.3.1



(記念碑制作：フルイチエヌ)



記念碑建立式

2012. 2. 20 水の会



関係者記念撮影

団体情報

〈団体名〉 水の会

〈代表者〉 会長 二見 剛史

〈設立日〉 昭和 58 年 5 月 1 日

〈会員数〉 18 人

〈主な活動内容〉

竹山ダム公園、その下流の水辺清掃

「水辺の里」造成・山城（中世）探索

水に関する研修

広く郷土史研究

野草を食べる会

灯籠流し等イベント開催

〈連絡先〉

所在地

〒899-6405

霧島市溝辺町崎森 2731-5

TEL 0995-58-3878 (FAX 兼用)

霧島連山登山環境整備事業

<霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会>

事業費：300,000円

市補助金：150,000円

目 的（背景・課題）

霧島市は近くに霧島連山という素晴らしい自然環境を抱えている。しかしながらその自然環境の良さを十分共有しているとは言えない。より多くの人に霧島連山の自然に親しんでもらい、また自然の大切さも再認識してもらいたい。そこで、登山リーダーの後継者育成や登山道整備など登山環境の整備に取り組みたい。

事業内容

- 7月 9日 北岳（26名）
- 7月 23日 甕岳（20名）
- 8月 20日 えびの～池めぐり（23名）
- 10月 1日 栗野岳（39名）
- 10月 15日 蘭牟田池（39名）
- 10月 28日 栗野岳（15名）
（楠学園の小・中・高校生を対象）
- 10月 29日 えびの～池めぐり（27名）
- 11月 5日 硫黄山～火口岳（17名）
- 11月 27日 栗野岳縦走（26名）
- 12月 10日 古道～河原周辺・遭難、救急訓練（24名）
- 1月 14日 栗野岳完全縦走（52名）
- 1月 22日 古道新床林道～山之城川湯（26名）
- 2月 11日 えびの岳～白鳥山～六観音御池（35名）
- 2月 26日 役員会（4名）



事業の成果

- ・リーダーを決めて登山を実施して、リーダー育成に努めた。
- ・登山を重ねて、霧島連山の地形、地質、火山、植物等に会員皆が興味を持ち、自然の大切さを再認識して保全に努めた。
- ・服装や挨拶なども気を付けて、他の登山者への気配りが出来た。
- ・小中高校生を対象に自然散策等を実施して、健全育成に努めた。
- ・毎回高齢者の参加があり、生きがいに貢献できた。
- ・障害者のリハビリを兼ねての登山は、実施出来なかった。今後障害者のリハビリや生きがいに貢献したい。

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
リーダーの増員と育成に努めたい。
3. 予算執行
多少の変更があった。
収入の見込み額が少なくなり、支出を変更する必要があった。
4. 今後の展望
 - ・さらにリーダー研修に力を入れて、安全登山のレベルアップを図りたい。
 - ・新たなコース作り及び整備等に力を注ぎたい。
5. その他
新燃岳噴火により、霧島登山が計画どおりに実施できなかったため、規制を受けない新たな登山ルートを開発して、会員、一般参加者にも喜ばれた。



団体情報

〈団体名〉霧島連山登山クラブ・

ボランティアレンジャーの会

〈代表者〉益満 美登

〈設立日〉平成 21 年 7 月 11 日

〈会員数〉43 人

〈主な活動内容〉

- ・リーダーを決めて登山を実施して、リーダー育成に努めた。
- ・登山を重ねて霧島連山の地形、地質、火山、植物等に会員皆が興味を持ち、自然の大切さを再認識して保全に努めた。
- ・登山道の整備作業を行ったり、また服装や挨拶などにも気を付けて他の登山者への気配りが出来た。
- ・小学校 5 年生を対象に自然散策等を実施して、健全育成に努めた。
- ・毎回高齢者の参加があり、生きがいくりに貢献できた。

〈連絡先〉

所在地

〒899-5241

霧島市隼人町見次 366-2

TEL 090-8916-4885

FAX 0995-43-2353

日当山駅近辺の整備計画による日当山温泉の活性化事業

<日当山会>

事業費：216,235 円

市補助金：100,000 円

目 的（背景・課題）

九州新幹線全線開業により、鹿児島を訪れる観光客は確実に増えているが、日当山温泉では顕著な増加は見えない状況にあり、今後は、このすばらしい日当山を知って頂く努力をし、観光客の増加を図り、日当山温泉街が、活性化するような事業を行う。

事業内容

- 7 月 「日当山まち歩き地図」を増刷し、県・市の観光課、JR 鹿児島支社、近隣の JR 駅、銀行、鹿児島空港案内所協賛店等へ配布
- 7 月 いざ霧島キャンペーンで鮎焼きを日当山会で担当（西郷どんの宿で）
- 8 月 いざ霧島キャンペーンで鮎焼きを日当山会で担当（西郷どんの宿で）
- 9 月 西郷どん宿で西郷翁の 130 回忌記念行事を開催
- 10 月 道路サポーターを編成し、日当山会としてゴミ拾い美化活動の実施
- 11 月 日当山広場構内に水仙などの花を植付け日当山駅トイレの清掃
- 11 月 日当山温泉公園に水仙を、地域の団体の応援を貰い 3,000 個を植え作業を実施
- 11 月 「日当山まち歩き地図」の一部を改定し増刷する
- 2 月 グリーンツーリズム加世田・笠沙地区をグリーンツーリズムの下津会長の案内で先進地研修を実施
- 3 月 道路サポーターゴミ拾い美化活動の実施



事業の成果

- 「日当山まち歩き地図」作成による効果
 - 1、日当山に多くの温泉が存在することの認識が広く知れ渡った。（県外からの問い合わせが多数あったことから）
 - 2、地図の配布に当たり行政はもとより JR や空港等の組織団体の協力体制ができ、マップの追加要求があった。
- 日当山駅周辺の整備の要望に対する効果
 - 1、行政に提出した整備等の要望書に対し今後も期待すると同時に地元の意識が向上してきた。
 - 2、花植を行い、また、舎内に花を飾るなどの結果、利用者への「おもてなし」が心に伝わっていると期待できた。
- その他
 - 1、日当山公園に水仙を植える際、地域の団体に呼び掛け多数の協力者が居ることを知り、地域の協力体制が出来た。また、毎年春先の楽しみが出来た。
 - 2、いざ霧島キャンペーンを通じ、日当山の魅力を広く宣伝できた。

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。

2. 改善すべき課題

急な組織の立ち上げで周りの認識も薄く会員も少なかったが、活動を重ねる度に認識も高まり、周辺の賛同者（団体含む）が表れ、今後は会員（特に女性）の増加を行って活動の活性化を図る。

3. 予算執行

多少の変更があった。

事業を行うのも初めての事が多く、予算作成時と事業実施時には多少の差異が生じた。

4. 今後の展望

日当山を活性化するには、温泉の有効活用が重要であり、今後も温泉の特徴を広域に知って貰うための企画が求められる。と、共に、肥薩線の魅力を向上させるため、日当山駅の役割は重要であり、周辺の整備を行政にお願いしつつ、地域が出来る花植など、おもてなしをし、遠方からの来客は勿論地域の乗降者が和める事が、長い目で見て街の活性化に繋がると考えられます。地域の豊富な観光資源を活用するためにも日当山駅は起点となると考えます。今年の10月には日当山駅の開業55周年となります。これを機に何かイベントを考えたいと思います。

また、道路サポーターを発展させ地域の美化に努めたいと考えています。

5. その他

この事業を経験し、周辺には地域の活性化に真剣に考えている人や団体が多く存在されていることを知り今後の活動に自信ができた。今後は活気ある街づくりの知恵を得るため、講師を呼び、他の地域の成功例など共有する勉強会を考えている。



団体情報

〈団体名〉日当山会

〈代表者〉濱田 勝弘

〈設立日〉平成22年5月7日

〈会員数〉19人

〈主な活動内容〉

「日当山まち歩き地図」を作成し8,000部印刷し、市・県の観光課及び観光施設に配布。温泉箇所看板を24か所に設置。

日当山駅に花壇を整備し、花植を2回実施。道路サポーターとして223号線道路の清掃作業を実施。

〈連絡先〉

所在地

〒899-5106

霧島市隼人町内山田2-11-12

TEL 0995-42-8186

霧島食育サポーター養成講座

～「すがめちゃん食育プログラムの開発と実証」～

<特定非営利活動法人霧島食育研究会>

事業費：771,777 円

市補助金：500,000 円

目 的（背景・課題）

背景

霧島市において、多くの市民が「食育」については興味があり、その中でも、生活習慣病の増加、子どもの心身の健全な発育に、高い関心を寄せている。また、地産地消の重要性も認知しているものの、実際の行動に結びつく割合は高くは無いという現状にある。（平成 20 年霧島市食育推進計画より）

当研究会では、その現状を踏まえ、平成 20 年より、当補助事業を活用し、「霧島一汁二菜事業」や「霧島おにぎりプロジェクト」等を展開し、その後もこれらの活動は内容を充実させ継続している。

その中で、課題となっているのが、一般市民および若者世代の「食育」の意識の薄さと体験の無さだった。

課題

このような状況を踏まえ、若者世代も含む多くの世代の人々が、ひとりひとりが現在の食生活をかえりみ、生活の質を高め望ましい食生活を営む力をつける必要があると思われる。そのために、①適切な食品を選び、調理するための知識・技術の習得②「食事が楽しい！」と感じることのできる環境作り③旬の食べ物の味の違いや、素材の特徴、出しの風味がわかる味の教育④食品の生産から消費までの社会の仕組みや、環境問題の中で「人が食べて生きていく」という意味を知る教育など「豊かな食体験」とそれを促す教育が必要であると感じた。

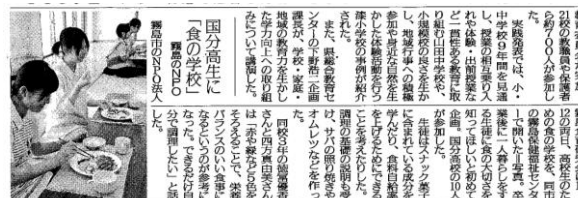
目的

本事業では、市民を対象に、食育リーダーの育成講座を行い、一般市民および若者への食に対する意識と行動の変化を促す。さらに在住地および

職場・学校等での食育活動の活性化を促進させる。

養成講座に際しては、霧島の食育キャラクター「すがめちゃん」を使用し、さらに霧島の食文化、食生活事情に配慮した食育教材を開発し、使用する。

また、養成講座終了後は、教材を霧島市内の食育活動団体等に無料配布し、一般市民にも実費配布することで、多くの市民に「食育」の取り組みを促すものである。



事業内容

事業内容

- 1、霧島の食生活・食文化を教材にした「すがめちゃん食育教材」の作成
- 2、霧島食育リーダー養成講座の開催
- 3、終了後、教材の配布（公共機関等）
- 4、教材の実費配布

事業スケジュール

7 月 打ち合わせ会（霧島市健康増進課・研究会）

7～8 月 教材の開発 参加募集開始

8 月 11・12 日、10 月 30 日 高校生対象 食育サポーター養成講座開催

10 月 14・21・28 日 成人向け食育サポーター養成講座開催

※計 6 回の開催で、延べ 73 名参加、霧島食育サポーター認定者 20 名

11 月～2 月 すがめちゃん食育教材（きりしま「食のがっこう」）の制作

3 月 教材の霧島市内食育活動団体等への配布・及び実費配布

事業の成果

1. 霧島の食文化への興味啓発および地域に根ざした食育活動の啓発

霧島市民の人々が、自分の住む地域の食べ物に興味を持ち、その食べ物を中心におき、料理したり、また伝えていくことで、自分の住む場所への誇りや自分が育った環境、親や子への思いを改めて強く感じていくことが出来たのではないかと考える。「そこにあるもの」を活かし、その風土、暮らし、歴史に敬意を払いながら、光を当てていく「霧島ならではの食育活動」が、地元への誇り・愛情・感謝の念をもたらすことができた。

2. 「食育」を通じた青少年の育成

参加者、特に青少年（高校生）が参加しやすい呼び掛けや広報に努め、主催者と参加者といった対極ではなく、一人ひとりが参画者として取り組み「一人ひとりを主役にする」取り組みを実施して、終了後も、青少年自身が「健康的な食生活」「自然環境と食」を通して、住みよく、郷土に誇りを持ち、明るく健康で生きる地域社会の創造に寄与できた。



団体情報

〈団体名〉NPO法人霧島食育研究会

〈代表者〉千葉 しのぶ

〈設立日〉平成 17 年 9 月 15 日

〈会員数〉13 人

〈主な活動内容〉

- 1、「霧島・食の文化祭」平成 16 年 11 月～年一回開催 現在 6 回開催 延べ参加者 5,700 名 延べスタッフ数 700 人
- 2、「霧島の子どもと大人のための食育プログラム」平成 16 年 4 月～現在
- 3、「霧島食べ物伝承塾」平成 17 年 4 月～現在 41 回開催 延べ参加者 620 名
- 4、「霧島・畑んがっこ」子ども組 平成 17 年 6 月～現在
- 5、「霧島・畑んがっこ」畑遊び組 平成 21 年 4 月～現在
- 6、鹿児島・大人のための食育セミナー 平成 19 年 4 月開催
- 7、棚田食育士養成食育実践講座開講 平成 19 年 7 月～現在
- 8、南日本新聞「鹿児島食育レシピ」掲載 平成 18 年 4 月～現在

〈連絡先〉

所在地 〒899-4201

霧島市霧島田口 1653-2

TEL 0995-57-0215 (FAX 兼用)

E-mail shinobuharry@yahoo.co.jp

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。

2. 改善すべき課題

なかった。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

4. 今後の展望

今後も継続していきたい。

5. その他

特になし。

子どもフェスティバル～あそぼう！つくろう！～

<きりしま・国分子ども劇場>

事業費：267,384円

市補助金：132,000円

目的（背景・課題）

子どもたちの遊びがゲーム機など自ら工夫したり仲間と一緒に遊ぶことが少なくなってきた。これにより子どもたちが人とつながって遊ぶ楽しさや、工夫から遊びが広がることを体験する機会が失われてきた。遊びのワークショップを通じて遊び道具をつくったり、仲間と遊ぶ楽しさを体験したり、地域の人の楽しい技術にふれる機会をつくることで、遊びの輪が広がり生き生きとした子どもたちの活動につながることを目的とする。また、生の舞台を見て楽しさを共有し心地よい時間を体験する機会をつくる。

事業内容

1回目となる夏の「子どもフェスティバル」は、ジミー入枝さんの歌に聴き入ったり、一緒に歌ったり音響効果のおもしろさを体感した。その後、遊びを楽しんだり、あそび道具を工夫しながら自分で作り遊びを楽しんだ。

2回目となる冬の「子どもフェスティバル」では、季節のものづくりを楽しむことができた。また、指導に青年がたくさん関わることで、遊びの楽しさがふくらんだ。

6月 ジミー入枝さん公演交渉 ワーク講師依頼

7月 広報・参加者募集（市広報・ケーブルテレビ・児童クラブ等）内容の詳細検討・出演者、講師への確認

8月28日 子どもフェスティバル～あそぼう！つくろう！～ 221人参加

10月 内容の詳細検討・講師の依頼確認

11月 広報・参加者募集

12月17日 子どもフェスティバル～あそぼう！つくろう！～ 102人参加

事業の成果

生の歌声を存分に楽しみ、音響効果のおもしろさに接することでより音楽の楽しさを体験できる機会になった。

あそびのワークショップでは、それぞれのコーナーで遊んでから作る意欲につなげたり、講師の声かけでそれぞれが工夫して作ることができた。ワークショップの内容は当初の計画より多くなったが、たくさんの体験を選ぶことができ嬉しそうであった。遊びのなかで、他の人の工夫が自然にわかったり、お互いに教え合うこともできた。

また前回からの地域の大人との繋がりや、青年達が指導に関わるようになったことで遊ぶ楽しさがふくらんだり、異年齢での遊びの楽しさを体感する機会となった。親子で楽しむことで、遊び道具でも自分で工夫できることを感じてもらえる機会になった。

鹿児島市市民活動支援事業

子どもフェスティバル ～あそぼう！つくろう！～

2011年8月28日(日)
10:00～12:30
(開場 9:45)

会場
サン・西のり (体育館)
参加費 4歳以上
1人 500円

第1部
10:00～
ジミー入枝 直前ライブショー
第2部
11:00
～あそぼう！つくろう！～

- * バルーンアート
- * ビロロコブター
- * 割り箸鉄砲
- * バルーンスライム
- * 手作り万華鏡
- * ジャグリングボール
- * エコおもちゃ

複数のコーナーで体験作成できます。
親子で楽しく過ごしましょう。

東日本から来ている子ども達も一緒に遊ぼう！

主催：きりしま・国分子ども劇場 後援：鹿児島市教育委員会
お問い合わせ・申込先 090-9600-4267/FAX 0995-64-4115
decochmi@y2dion.ne.jp または decochami@ezweb.ne.jp
※希望事項を書いて申込してください。チケットを取り置きいたします
または、きりしま国分山形屋、さざなカードにもあります。

子どもフェスティバル参加申込書

お名前	姓	名
ご住所		
お電話	市	区
チケット枚数	姓	名

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
なかった。
3. 予算執行
多少の変更があった。
たくさんの人数が集まりそうだったので、青年の参加を多くし賃金を変更（金額・人数）した。
4. 今後の展望
子ども達が集いやすい地域でのあそび会や、遊びワークショップの開催でよりたくさんの子どもが作る楽しさを実感できる機会を増やしたい。また、地域の青年達が子どものリーダーとして関わる場を地域で作っていきけるようにしたい。
5. その他
特になし。

団体情報

〈団体名〉 きりしま・国分子ども劇場

〈代表者〉 西加 八重

〈設立日〉 平成 19 年 6 月 24 日

〈会員数〉 59 人

〈主な活動内容〉

鹿児島県子ども芸術祭典（平成 2 年より）
設立前より実施

プロの舞台の芸術鑑賞・遊び会・絵本づくりなど

子どもに関わる大人のためのコミュニケーションワークショップ

〈連絡先〉

所在地 〒899-4343

霧島市国分野口西 25-35

TEL 0995-47-1504

E-mail decochami@y2.dion.ne.jp



「清水ほたるの杜」再生事業

<清水ほたる愛好会>

事業費：203,034円

市補助金：100,000円

目 的（背景・課題）

現在、日本列島には2科10属46種（2亜種）のホタルが記録されているが、成虫が良く発光するのは14種である。しかも、ホタルの種は、過去から未来永劫まで純血であり、交雑種は存在しない。「源氏ホタル」は日本固有な種であり、大型で、光も強いので、昔から最も知られて、生息地と共に全国で10箇所が国の天然記念物に指定されている。

しかし、数千匹の「源氏ホタル」乱舞で、全国的にも有名な宮崎県小林市「出の山公園」は、幼虫激減により、「ホタルの夕べ」を中止する等、「源氏ホタル」を取り巻く環境は厳しい。そこで、「清水ほたるの杜」再生を目指すため、「源氏ホタル」の成虫を採取し、採卵、孵化、幼虫の養殖により復活、ホタルを通して自然と生き物と触れ合い、「清水ほたるの杜」を維持管理して将来に残し、また地域の大人と子どもと協力しながら、「日本一」の癒しの場所とすることを目的とする。

事業内容

源氏ホタルによる「清水ほたるの杜」再生を目指すため、成虫を採取し、採卵、孵化、幼虫の養殖により復活、ホタルを通して自然と生き物と触れ合い、同杜を維持管理する。同時に地域の大人と子どもと協力しながら将来に残し、市民の癒しの場所とするために、昨年に引き続き以下のことを実施した。

1、平成23年7月～平成24年2月

(1)「源氏ホタル」幼虫餌用カワニナの飼養管理

(2)清水ほたるの杜（場所）

(3)週2回、飼養管理した

2、平成23年10月～12月

(1)「源氏ホタル」幼虫と餌用カワニナの放流

(2)清水ほたるの杜（場所）

(3)国分北小3年生87名

(4)パンフレット：源氏ホタルの養殖を配布

3、平成24年2月

(1)幼虫上陸と成虫観察及び観賞用「組み立て式観客席」7個の設置

(2)試験水路、新水路、癒しの池1付近

(3)7名で作業した

4、平成24年2月

「清水ほたるの愛好会の歴史と現状」：冊子50部（カラー刷り）

5、平成23年8月

ほたるの杜に設置計画だった、7ヶ所目の「源氏ホタル」宿、里（約60m水路）の建設（鹿児島協和コンクリート株式会社の資材提供による）は、借地交渉不調のため中止した。

事業の成果

1、この事業の実施により、「清水ほたるの杜」の再生という大きな課題が解決され、「源氏ホタル」を通して自然と生き物と触れ合う霧島市の環境改善が図られた。

2、「清水ほたるの杜」の自然に優しい環境により、清水地区住民の活性化が図られ、将来「源氏ホタル」の養殖（成虫採取→産卵→孵化→幼虫飼育→放流）から成虫までの生態系を、大人から子どもまで学習することが出来た。

3、「源氏ホタル」を通じて、明るく・元気・優しい霧島市民に親しまれる「癒しの場所」となった。

4、この事業は、地域住民の協力により継続が可能となった。

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。

2. 改善すべき課題

源氏ホタル幼虫の斃死対策：一般に孵化した幼虫の斃死率は、約3～4割と言われている。昨年1万匹孵化した幼虫が残り250匹と原因不明の斃死をした経験から、今年養殖場の4ヶ所分散化を図り斃死率4割に成功

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

助成金により、幼虫上陸及び成虫観察用「組み立て式観客席」（パイプ製）7個を会員の協力により設置し、幼虫上陸観察及び「ほたるのタベ」における成虫乱舞観賞等に大いに貢献した。

4. 今後の展望

2年間の助成により、ホタル幼虫の上陸および乱舞する成虫を、市民がゆったり座って観察、観賞する「組み立て式観客席」と幼虫観察、観賞用「遮光ネット」が設置出来、事業の継続が可能となった。

5. その他

源氏ホタル再生には、継続した情熱と各人及び地域住民の協力がなければ皆無である。その点この組織と清水地区は素晴らしい！



団体情報

〈団体名〉清水ほたる愛好会

〈代表者〉米森 道明

〈設立日〉平成22年5月8日

〈会員数〉29人

〈主な活動内容〉

- 1, 「源氏ホタル」の養殖：①採卵孵化②幼虫の飼育③幼虫の放流（国分北小学校へ依頼）④幼虫の上陸数調査⑤成虫の発生調査⑥幼虫の餌カワニナの採取⑦カワニナ養殖及び飼育
- 2, 「清水ほたるの杜」の建設：①ホタルの宿・里となる試験水路、池（甘藷焼酎粕コンクリートを利用！）、新水路（甘藷焼酎粕コンクリートを利用！）建設②新水源の確保
- 3, ホタル観賞用「遮光ネット」を設置（補助金1回目により）
- 4, 平成22年7月7日（水）源氏ホタル幼虫350匹放流
- 5, 平成22年10月11日（月）20日（水）源氏ホタル幼虫450匹放流
- 6, 「清水ほたるの杜」の環境整備とカワニナ餌用薬物畑耕作
- 7, 第二回「ほたるのタベ」の開催及び準備：平成22年5月22日（土）①「玄亀庵公民館」を借用し、室内講演発表および国分北小3年生による演奏会②屋外展示及びバザー等③「源氏ホタル」成虫約1,000匹が乱舞した。

〈連絡先〉

所在地 〒899-4305

霧島市国分郡田818

TEL 0995-47-4287（FAX 兼用）

E-mail hiroschi_2500@ybb.ne.jp



バイオマス資源としての竹利活用事業化プロジェクト

＜特定非営利活動法人 霧島サンバイオ＞

事業費：552,122 円

市補助金：246,000 円

目 的（背景・課題）

霧島市内の放置竹林を整備し、竹を地域の有効資源として利活用するプロジェクトである。平成 22 年度は、実際に竹林整備を手がける段階まで進めることができたが、コスト面での問題はまだ解決していない。たけのこの品質・収量を向上及び、竹材の低コスト搬出のモデル事業を前年に引き続き実施する。また、霧島市内に竹チップ工場等を建設する可能性調査も引き続き実施する。

事業内容

8 月 5 日に学習会を開催し、竹の利活用をテーマに、竹粉の利活用を実践している農場の視察研修と元鹿児島県農業普及所長中木場修さん、NPO 法人熊本県有機農業研究会の野口慎吾さんの基調提起をもらい、これからの竹林整備、竹の利活用について学習した。会員外 7 名を含む 18 名参加、入来町の竹粉を実際に使用している農場を中木場さんの案内で視察した。その後研修室で「鹿児島県の農業の現状と竹粉実証の成果について」講習があった。栗山靖男さんの牛舎では、キャタピラー九州の発酵竹粉を実際飼料に混ぜて与えている。畜舎の臭いが押さえられ、ハエも少なく、生育が良いとの説明を受けた。

1 月末に緒方様と現場にて場所を選定し、賃貸契約を締結した。広さは約 10 a、期間は平成 24 年 2 月 1 日から平成 29 年 5 月 31 日までの約 5 年間、賃貸料は無償で、途中の返還は自由とした。2 月 2 日より竹林整備に着手した。途中雨天が多く作業できない日が多かったが、3 月 21 日完了した。始業時刻 8 時 30 分、終業時刻 16 時 30 分、昼食時間 1 時間休憩で 7 時間就労で作業した。区割りは、10m 角を約 10 区画取れるように測量し、竹の杭を打ち赤いスプレーで目印とした。枯れ竹の搬出と

土留め作業を進め、枯れ竹は焼却処分した。土留め作業は立ち枯れ竹を主に使い、倒れた竹も使用した。杭は倒れ竹の先端を利用した。その後選竹し、残す竹にテープで印をつけた。テープのない竹を伐採し、玉切りして売却した。枝と先端のウラはチップパーで破碎した。

3 月 10 日バイオマスフェアを開催し、竹林整備現場検証結果を会員外の市民にも広報することができた。



中木場さん(中央)の案内による竹粉使用実証農場の視察状況



栗山畜産の発酵竹粉を子牛に給餌しているところの視察状況

事業の成果

鹿児島県のタケノコ生産及び竹林整備状況について学習し、実際竹林整備を手掛けてみて、現状と課題がはっきりしてきた。竹林整備は重労働の割りに見返りが少なく、手間や資金が必要となる。今後所有者、竹林整備請負者が満足できるシステムを、行政と協働で構築する必要がある。今回 10 a の竹林整備を実施して、データをもとに提案をまとめた。5 年間の管理期間があるので、早掘りタケノコを探す技術や間伐を含めた管理マニュアルをまとめ、竹林整備とタケノコ生産を雇用の受け皿にできないか検証したい。

学習会 のご案内

目 的

NPO 法人霧島サンバイオでは、地域の環境問題の解決を図るため、霧島再生部会、本質資源部会、葉草葉木酢液部会の地域資源部を立ち上げ、調査・研究・提言等の活動を行っています。今回の学習会は、竹の利活用をテーマに、竹粉の利活用を実践している農家の視察研修と、元県農業改良普及所長中本場さん、NPO 法人熊本県有機農業研究会の野口さんに基調提言をいただき、これからの竹林整備、竹の利活用推進に生かしたいと思えます。

会員に限らず、どなたでも参加できます。

薩摩川内市、入来、宮之城の農場や畜産農家を視察します。



薩摩川内市、入来・宮之城の農場や畜産農家を視察します。昼食はいわた池で、夜の情報交換会は、帰ってきて市役所2階「蔵」で行います。

交流会参加者は、別途会費¥3,000 円(ハンドルキーパーは¥2,500 円)です。申し込みは裏面をご覧ください。

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
荒廃した放置竹林整備とタケノコ生産の推進を図り、竹林面積日本一の鹿児島県として、産業振興に努める必要がある。国、県、市町村と民間活力の協働事業として取り組むことが解決策となる。
3. 予算執行
大きな変更を余儀なくされた。
竹林整備を実際に手がけるに当たり、備品揃えや作業員、レンタル料が発生し、当初予算を変更せざるを得なかった。
4. 今後の展望
今回賃貸した竹林を5年間は管理しなくてはならない。その中で管理のマニュアル化や竹林整備、タケノコ生産の訓練機関として体制づくりを図りたい。霧島市林務課との連携を深め、地場産業の育成と人材育成を図り、雇用対策にも寄与したい。
5. その他
ひとつのNPO 法人だけで解決できる問題ではないので、行政や他団体との協力体制を図って行きたい。



区割り作業



土留め作業



選竹作業

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人
霧島サンバイオ

〈代表者〉 理事長 大坪 徹

〈設立日〉 平成 19 年 12 月 14 日

〈会員数〉 43 人

〈主な活動内容〉

- ・ バイオマスの利活用等に関する事業
- ・ 地域産業振興等に関する事業

〈連絡先〉

所在地
〒899-5241
始良市加治木町木田 1622-6
TEL 0995-62-1160 (FAX 兼用)
E-mail higell160@ksh.biglobe.ne.jp

山里遊びプロジェクト～森・水・土は仲良し～

＜特定非営利活動法人 霧島自然菜園倶楽部＞

事業費：869,400円

市補助金：500,000円

目 的（背景・課題）

高齢化や担い手不足による田畑の耕作放棄、森の荒廃が目立っています。また食糧自給率の低下や海外からの安い農産物の輸入によって国内の農業力にも影響が及んでいます。私たちは自産自消、身土不二を念頭に安全なものを体に取り入れることが大切だと考えています。森を管理し、水を育て、土を作る。その田畑で自然の恵みを生み出し頂く。この活動が自然環境を守り自分自身の健康を守るものだと考えています。

事業内容

生活に欠かせない「水」そしてそれを生み出し蓄えている「森」の役割と食べ物を生産する田畑「土」のつながりを学び、収穫の喜びを遊びの中から体験する事業です。活動は、山の湧き水を利用し多くの生き物の力を借りながら行う【真鯉米倶楽部】と畑で色んな有機野菜を作る【有機野菜倶楽部】を同時に行いました。活動では竹林を利用した貯金箱作りや森の間伐、水源の手入れの他、田畑の健康な土づくりまでを行いました。

1. 真鯉米倶楽部 お米・そば栽培、調理実習（味噌作り・餅つき）
2. 有機野菜倶楽部 有機野菜栽培
7月23日（土）大豆播き&竹遊び
8月1日（月）参加者二次募集開始・ポスターチラシ配布
27日（土）じゃがいも植付け&森の間伐
9月24日（土）田んぼの草取り&大根白菜の種蒔き・栗拾い
10月15日（土）稲刈り掛け干し&森の観察
10月23日（日）稲刈り掛け干し&森の観察
11月26日（土）玉葱苗植付け、大豆脱穀

12月17日（土）大根収穫&獣害防除対策

1月21日（土）麦踏み・味噌作り

2月18日（土）落ち葉堆肥作り&もみ殻燐炭作り

事業の成果

この事業を実施して、森・水・土がどのようにしてつながり、自分たちに影響しているのかを自然の中で体感し学ぶことが出来ました。安全な食べ物を得るためには森や田畑（土）、清らかな水を守ることが重要だと言うことを感じ取ることが出来たと思います。多くの参加者は幼児から中学生までの親子同伴でしたが、普段体験できないことを肌で感じることで、いつまでも記憶に残るものとなったと思います。今後その体験が大人になった時に生きていくためには欠かせない大切なものがあるということを得られたと思います。今回の参加者の大半の方には、自分たちで作業して収穫した【真鯉米】を購入していただきました。実際に食した子どもたちの感想は、『お米の味が違う』『おかずがいらない』などと自然の恵みで作ったお米がいかにおいしくて安全なのかを実感していただきました。このことがまさに今回の事業の成果だと思います。安全な農業（農作物）・健康な食生活へ導く手助け、すなわち市民の健康へ繋がる活動だったと考えます。

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
自然を生かし共存するという思想でこの事業に取り組んだが、思いのほか鳥獣害に遭い、全体の作付面積の半分ほどをイノ

シに害されてしまった。次年度は防獣対策を講じることで更なる自然との繋がりをを学びながら予定量の収穫を得たい。

3. 予算執行

計画内容に変更があったため、多少の変更があった。

4. 今後の展望

平成23年度に引き続き真鯉米作りで自然の中から学んでいきたいと思う。また、次年度は多くの参加者に体験してもらうために休耕田畑を復元し、活動の場（面積）を拡大していきたい。このことは、環境保全・食糧自給・社会教育に役立つと思われます。

5. その他

事業実施時点で既に田植えが終わっていたため、お米作りで重要なイベントの籾播きや田植えが組み込まれなかったことは残念でした。また、次年度以降は参加者募集の方法やイベントの内容の広報活動に力を入れ多くの方に体験していただけるようにしたい。豊かな自然環境を復元し、そこで多くの動植物に触れてお米作りなどが出来たことは、今後の私たちの取り組み（活動）にとっても自信と確信を得られたものでした。



団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人

霧島自然菜園倶楽部

〈代表者〉 角屋敷 学

〈設立日〉 平成22年11月25日

〈会員数〉 15人

〈主な活動内容〉

2010年11月より毎月第2木曜日に「旬の調理塾」開催

12月より毎月第3木曜日に「甘い瓶の塾」開催

2011年3月 市民農園法により農園開設

4月 市民農園利用開始

〈連絡先〉

所在地

〒899-4345

霧島市国分府中93番地5

TEL 0995-46-6344 (FAX 兼用)

E-mail kaon@ktd.biglobe.ne.jp



高齢過疎地域におけるIT活用のいきいきネットワークづくり事業

<ニコニコ会>

事業費：766,355円

市補助金：500,000円

目的（背景・課題）

生きがいは、病院に通い物理的延命策を図るだけでは解消できない。寝たきりの独居老人・要介護及び視聴覚障害のある方々は、生涯学習等の公民館活動に参加していない。鹿児島県では郷里に就職先が少ないために帰郷せず、空き家・独居老人、認知症予備軍・要介護者を抱える家族が多くなっている。本事業は、地区公民館（昼間常駐①）、民生委員（各地区に常駐②）、要援護者のいる家族（高齢者等③）及び遠隔地の家族（若い家族の多い都会・海外等④）を、インターネットを利用したテレビ電話ソフト（Skype）で、相互に結び、お互いに顔を見ながら会話をを行い、世界中の仲間と皆が笑顔で暮らすことのできる地域社会の実現を目指す。平成5年夏、隼人姫城地区では最大浸水深が1.75mに達し、洪水ハザードマップが霧島市のホームページに掲載されているにもかかわらず、これら災害情報を知る機会は与えられていない。これら情報弱者の地域社会への参画を推進する

事業内容

隼人姫城地区公民館をモデルとして、地区の活性化を意図するIT活用の事業に取り組んだ。将来的には、他地区・介護予防拠点等へ拡充することにより、霧島市全域の高齢者が、より、いきいきと元気になることを期待している。

本年度は次の内容で実施した。

- ①地区公民館における高齢者等への来館サポート：随時
- ②高齢者等宅における訪問サポート
- ③高齢者をサポートするためのインターネット活用セミナー開催：11/27（日）

④霧島市における高齢過疎問題を解決するための意見交換会開催

⑤市民活動の先進事業として、福岡と熊本のNPO活動を調査・研修

⑥自己研鑽のための勉強会・打合せ会議・研修会参加など

高齢過疎地域においては、地方と都市部（東京等）との地域格差の是正、世代間を越えた交流が求められる。この課題を解消するために、ICT（情報通信技術）を利用する手法を用いた。人と人のコミュニケーションは、お互いに顔を見ながら会話をすることが基本である。このため、自治体関係者・民生委員等と一緒に、高齢者等（災害時要援護者を含む）とその家族間でインターネット利用のTV電話（Skype）で結ぶ事業でスタートさせた。Skype利用セミナー及び高齢者をサポートする方々のための講習会を実施した。随時、高齢者宅や公民館等で実施、活発な議論を行った。同公民館では毎年、年度末に文化祭を開催している。「隼人姫城地区公民館だより」にインターネット生中継予定のお知らせを行った所、海外からも生中継の映像が視聴できた、とのお便りをいただいた。

事業の成果

平成23年度の事業の集大成として、第9回姫城地区文化祭を平成24年3月24日（土）と25日（日）に実施、インターネット回線を利用した動画による実況中継（Ustream）を行った。東京や米国からもアクセスされ、閲覧していただき、その結果、公民館講座等の活動を広く情報発信することができた。通常、学習した内容を発表しても、出演者は自分自身を見ることはできない。必ず、知人にビデオカメラ等で撮影し

た映像でしか見ることができない。Ustream の実況内容は、同時録画していったため、帰宅後、自分でその映像を閲覧できる。自己学習・自己啓発の機会を得ることができる。東京や外国にいる子どもや家族・知人に向けて情報伝達を行うことができ、社会の絆を深めることに一助した。

霧島市の公民館ではインターネット回線を本事業のために敷設することができた。高齢者の方々にとって、インターネットという言葉に対して、お金がない、情報通信技術の急速な進歩、機械音痴、操作方法は難しいとの悲鳴が聞こえる。これも、急速に高齢化人口が多くなっていく。この地方における社会において、公民館も IT 学習の場と捉えることにより、日当山の温泉でも浸かって、遠くの子どもや友人と公民館にやって来て、インターネット回線を使ったテレビ電話（Skype）で、楽しくお話ができたら一層元気になれる。癒し効果があるのではないかとと思われる。



↑ 高齢者インターネット活用セミナー（H23. 11. 27）

自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2. 改善すべき課題

霧島市の公務員や若い方々が NPO や市民活動団体のボランティア活動にあまり進んで参加できる状況にはなく、今後の検討課題です。

3. 予算執行

多少の変更があった。

霧島市福祉担当者から紹介いただき、介護予防拠点事業者及び民生委員等との説明会でのプレゼン説明、個人的折衝を精力的に実施しました。しかし、時期早々であるとのことで、今年度は実現にいたらなかった。

4. 今後の展望

今後の高齢化社会への活動として、田舎を元気にすることが課題です。このため、ニコニコ会の IT 技術力（Ustream や YouTube 等）と行動力で、霧島市の公民館活動や各種行事の情報発信が実現可能と考えています。

5. その他

お仕事を持っておられる方々がボランティア活動がし易いように、もう少し気配りをすべきでした。IT を用いた情報発信を試みた結果、老若男女、田舎も素敵に過ごせる手掛かりを得た、と認識しています。



姫城地区文化祭のインターネット生中継（H24.3.24、3.25）
場所：隼人姫城地区公民館、観客、約130名

団体情報

〈団体名〉ニコニコ会

〈代表者〉疋田 誠

〈設立日〉平成 22 年 10 月 6 日

〈会員数〉8 人

〈主な活動内容〉

本事業を推進のために準備作業として、ニコニコ会の会員募集、会合、インターネット回線を通じた TV 電話（Skype）や電子掲示板（mixi）による意見交換を行ってきた。具体的には、Skype の実演（平成 22 年 9 月）、九州労金助成金の申請（同 11 月）、総会開催（平成 23 年 1 月）、寄贈パソコンの申請（同 2 月）、定例会開催（同 3・5 月）、勉強会開催（同 4 月）等である。

〈連絡先〉

所在地 〒899-5105

霧島市隼人町小田 70-25

TEL 080-1757-5956 FAX 0995-42-5315

E-mail hikidamakoto@gmail.com

霧島ふるさと再発見事業

<よもぎの会>

事業費：301,395 円

市補助金：150,000 円

目 的 (背景・課題)

古くから清水地区には、手づくりそばや、よもぎ団子などの食材の製法が伝承されていたが、高齢化や食文化の変化などに伴いその製造技術が忘れ去られようとしている。地域の食文化を後世に伝えて残し、霧島市内に広めることを目的とする。また、途絶えていた製法を再現した「お千代まんじゅう」の製法も同様に伝承していきたい。

さらに、「ゴキブリ団子」の製造方法を広く伝授し、利用を推進することによって一般家庭及び地域における衛生対策に寄与することを目的とする。併せて、ふるさとを再発見する契機とする。

事業内容

- ・9月23日、各地域で実演指導するため、ゴキブリ団子と廃油石鹸の作り方を大原さんより指導を受ける。参加者9名。
- ・9月27日、ゴキブリ団子と廃油石鹸の袋詰め。参加者7名
- ・11月7日、事業実施計画についての話し合い。参加者11名
- ・11月21日、小畑自治会にて、ゴキブリ団子と廃油石鹸の製造実演。参加者、自治会員12名、会員8名。皆さん興味深く聞き入っていた。これからどんどん広めていきたいとの事。
- ・12月10日、三郷自治会にて、ゴキブリ団子、廃油石鹸、よもぎ団子、そばの作り方を実演指導。参加者、自治会員20名、会員7名。子どもも参加して一生懸命頑張ってくれた。
- ・平成24年1月8日、手打ちそばを作り、袋詰めし「鬼火焚き」会場にて持ち帰り用として販売。参加者11名。

- ・1月23日、毛梨野自治会にてゴキブリ団子と廃油石鹸の作り方を実演指導。参加者、自治会員11名、会員11名。
- ・2月6日、駒松、片平自治会にて、ゴキブリ団子と廃油石鹸の作り方を実演指導。参加者、自治会員11名、会員10名。
- ・2月26、27日よもぎ摘み。今年は寒くてよもぎが出ていない。草やぶの中で小さな新芽を摘む。苦勞した。参加者11名。
- ・2月29日、手打ちそばとよもぎ団子を作り、北辰神社で販売。参加者13名。

事業の成果

- 1、各自治会に出前講座を実施した。どこの自治会も好評でゴキブリ団子や廃油石鹸に関心が高かった。地域の衛生環境意識の向上に寄与できたと思う。
- また、地域の高齢者や子どもたちと交流の機会が持てたのもこの事業の効果である。
- 2、会員のゴキブリ団子や廃油石鹸、そばやよもぎ団子の製造技術が向上した。
- 3、製造に必要な機器をそろえることが出来た。
- 4、「よもぎの会」を通して、集団活動の機会が増えた。



団体名 よもぎの会
月 日 2011年12月10日
区 分 三郷自治会
説 明 実演指導
内 容 ゴキブリ団子、廃油石鹸
よもぎ団子、手打ちそば
参加者 自治会20名、会員7名



団体名 よもぎの会
月 日 2011年12月10日
区 分 三郷自治会
説 明 実演指導
内 容 ゴキブリ団子、廃油石鹸
よもぎ団子、手打ちそば
参加者 自治会20名、会員7名

自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2. 改善すべき課題

なかった。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

4. 今後の展望

今後も「よもぎの会」の活動を通して、地域活性化のための活動に参加していきたい。また、活動に必要な資材等が揃ったので、次回は補助金なしで活動する。

5. その他

メンバーの絆が深まった。また、私たちの活動が地域に受け入れられていることを知り、自身が持てた。地域の高齢者や子どもたちとも楽しく交流できた。



団体名	よもぎの会
月 日	2012年2月29日
区 分	北辰神社大祭
説 明	実演販売
内 容	ゴキブリ団子、魔油石饅 手打ちそば、よもぎ団子
参加者	会員13名



団体名	よもぎの会
月 日	2012年2月29日
区 分	北辰神社大祭
説 明	実演販売
内 容	ゴキブリ団子、魔油石饅 手打ちそば、よもぎ団子
参加者	会員13名



団体名	よもぎの会
月 日	2012年2月29日
区 分	北辰神社大祭
説 明	実演販売
内 容	ゴキブリ団子、魔油石饅 手打ちそば、よもぎ団子
参加者	会員13名



団体名	よもぎの会
月 日	2011年12月10日
区 分	三郷自治会
説 明	実演指導
内 容	ゴキブリ団子、魔油石饅 よもぎ団子、手打ちそば
参加者	自治会20名、会員7名



団体名	よもぎの会
月 日	2012/2/26、27
区 分	よもぎ摘み
説 明	
内 容	よもぎ摘み 寒さの影響で苦分する
参加者	会員11名

団体情報

〈団体名〉よもぎの会

〈代表者〉大原 春江

〈設立日〉平成 22 年 2 月 25 日

〈会員数〉14 人

〈主な活動内容〉

1、各種イベントなどにおいて、手づくりそばや、よもぎ万十、お千代まんじゅうの製造実演し、ふるさとの食文化を広く伝承する。

2、各種イベントなどにおいて、ゴキブリ団子の製造実演し利用を推進する。

〈連絡先〉

所在地

〒899-4304

霧島市国分清水 1 丁目 25-12

TEL 0995-45-0539 (FAX 兼用)

福山まるごと博物館

<エコミュージアム福山>

事業費： 561,805 円

市補助金： 369,000 円

目 的 (背景・課題)

黒酢の里と古い町並みを有する福山は、ここ数年着目度が高まり、昨年、MBC テレビ「ドンかご」の放送がさらに拍車をかけました。エコミュージアム福山では、住民が直接参加推進する着地型観光地（福山まるごと博物館）の発信を図るため、平成 22 年 6 月 12 日に浦町公民館で住民への説明会を開催、さらに 7 月 25 日に国内外から専門家を招き、エコミュージアム国際フォーラムを開催しました。霧島よかとこ博覧会にもメニュー参加し、平成 23 年 3 月 26 日に漁協とのタイアップ（漁師市）により多くの方々に、福山の魅力を発信出来ました。しかし、住民自らが古里のことを知らない、良さに気付かないというニュアンスも感じ取れ、本会ではこれら住民の意識改革を念頭に事業の推進を図りたいと考えています。

事業内容

福山まるごと博物館の実現に向けて、福山の魅力を再発見するための各種行事に取り組んだ。

1、ゴッタンコンサート

(平成 23 年 7 月 23 日・約 200 名参加)

福山出身のゴッタン奏者故荒武タミさんの 20 回忌に合わせて旧田中家別邸でコンサートを実施した。荒武タミさんの住居近くの財部北小学校のゴッタン演奏や「タミ女一代」などゆかりの発表がなされた。

また、会場となった旧田中家別邸の価値についても PR を行った。

2、きりしま散歩「福ふく酢っ霧ツアー」

(平成 23 年 7 月 30 日・16 名参加)

JR や市観光協会とタイアップして福山の魅力を情報発信した。

3、福山町比曽木野・佳例川地区研修視察

(平成 23 年 10 月 28 日・15 名参加)

平家落人伝説の地・西南戦争戦跡などを視察した。

4、散策マップ作成ワークショップ

(平成 23 年 10 月 30 日)

福山地区文化祭の折、散策マップ作成ワークショップを開催した。

5、荒武タミ女説明板作成 (平成 23 年 12 月)

故荒武タミさんの生誕 100 年を記念して説明版を作成した。

6、散策マップ作成 (平成 24 年 1 月・2 万部作成)

福山まるごと博物館の散策マップを作成し、JR 鹿児島中央駅・鹿児島空港・旧田中家別邸等に配置した。

7、なぎさコンサート

(平成 24 年 3 月 24 日・約 200 名参加)

錦江湾の国立公園指定となぎさ工事完成を祝し福ふく漁師市の開催日に合わせて福山港でコンサートを開催した。(福山幼稚園・福山小学校・太鼓坊主等出演) 福山の多様な魅力を印象付けることができた。

8、定例会 (毎月開催)



事業の成果

地元ゆかりの人物（故荒武タミ）と地元の資源（錦江湾・福山港のなぎさ・旧田中家別邸）に着目し、2回のコンサートを実施した。参加者に福山の多様な魅力を印象付けることができた。

また、福山まると博物館のマップを作成し誰もが散策で福山をめぐるようにした。なぎさコンサートでは福ふく漁師市と連携でき今後の集客や魅力のアピールに展望が見えてきた。



自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。

2. 改善すべき課題

散策案内の会員研修は取り組めたが、案内人養成講座が実施できなかった。組織・団体を対象にした講座ができないか今後検討したい。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

4. 今後の展望

今後魅力あふれる福山の資源発掘とそれらを活かしたイベントの開催（荒武タミ女誕生地比曽木野でのコンサート・散策とミカン狩りなど）を企画予定です。

5. その他

特になし。

団体情報

〈団体名〉エコミュージアム福山

〈代表者〉前田 義人

〈設立日〉平成 22 年 5 月 31 日

〈会員数〉12 人

〈主な活動内容〉

- ・平成 22 年 7 月 25 日「エコミュージアム国際フォーラム in 霧島」参加者約 80 名
- ・平成 23 年 3 月 24 日「黒酢の里福山散策と福ふく漁師市」（霧島よかとこ博覧会企画）参加者約 30 名

〈連絡先〉

所在地

〒899-4501

霧島市福山町福山 5145-23

TEL 090-2392-0271

FAX 0995-56-2078

E-mail spsx6wg9@juno.ocn.ne.jp

互いに楽しく支え合うまちづくりに関する事業

＜特定非営利活動法人隼人シニアネットきずな＞

事業費：790,408円

市補助金：500,000円

目 的（背景・課題）

隼人族の霊を慰めるための放生会をすべしと云う宇佐神宮の託宣で全国に広まった放生会の伝統行事の継承である。

この事業を「隼人シニアネットきずな」の会員が中心になって、地域の伝統行事である「浜下り」に参画することで会員の持つ様々な能力を活用して浜之市特産品や魚市などの販売を通して地域の活性化を図ると共に魚獲り、踊りなどの伝統文化を青少年に継承して行く事業を行うものである。

事業内容

平成 23 年 10 月 16 日（日）隼人浜下り

浜の市会場（八幡屋敷）

- ①魚獲りへの参加、育成、保存
- ②マスゲームの参加、育成
- ③特産品や水産物の販売
- ④浜下りの行列参加
- ⑤青少年の相撲大会実施
- ⑥高齢者の生きがい対策

平成 23 年 5～10 月

- ⑦花壇づくり等沿道整備

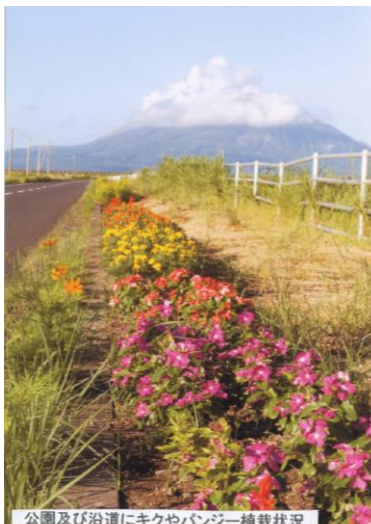
事業の成果

特に納屋自治会に実行委員会を設け、富隈地区長寿会・錦江漁港等が一体となって事業推進にあたったのが功を奏した。

伝統行事の継承の大事さが、住民にも理解され・地域の絆が深まり、地域の活性化のため心を一つにして取り組めば何でもできる自信をえた。



魚とい踊り



公園及び沿道にキクやパンジー植栽状況



2011.05.05



2011.10.16

自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2. 改善すべき課題

農繁期や行楽シーズンであり、また、幼稚園・保育園の運動会など諸行事とちあたりするので、日程の面で集客に難題がある。どちらか日程を変更をする話し合いが出来ればよいと思う。

3. 予算執行

多少の変更があった。

初年度事業計画をほとんど手探りでたて試行錯誤しながら実施しなければならず、予測外の出費が生じた。

特に会場が田圃を埋め立てた跡地なので二日続きの雨で水浸しとなり、排水対策が必要となった。そして川砂の運搬による敷地均しや排水のため多数の労力を要し、整地・排水を行った。

4. 今後の展望

伝統行事の継承だけでなく、浜下りと小島開発を結びつけた観光開発・漁業資源の増殖による遊漁及び錦江湾遊覧・ヨットレースなど観光開発を行い初午祭につぐ、祭りとして発展させ地域の活性化をはかる。

5. その他

隼人シニアネットきずなと納屋自治会及び地域の実行委員・錦江漁協等が、この伝統行事継承の重要性について認識を高め、一体となった取り組みができた。

この浜下りによって、生涯学習で学んだ演芸や伝統芸能などを発表する機会ができた。そのことが学習成果の喜びと生きがいになった。また、伝統芸能を継承

継承するうえで、できるだけ多くの機会が必要であると思った。地域の人々が集い絆が一層深まり、今までで1番盛り上がった。



団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人

隼人シニアネットきずな

〈代表者〉 津之地 良

〈設立日〉 平成 23 年 4 月 4 日

〈会員数〉 13 人

〈主な活動内容〉

お互いに支え合うまちづくりに関する事業（浜下り・公園等の花植え）のほか、小浜の小牧地区に棚田の再生と景観づくりその他高齢者の日常支援・生きがい健康づくり・きずなを活かした災害防止・救援事業等・6事業を計画実施する。

港湾道路のドーム菊づくり・子どもの安心・安全防犯パトロール 5 年継続中。

〈連絡先〉

所在地 〒899-5102

霧島市隼人町真孝 1510-36

TEL 0995-42-0655 (FAX 兼用)

映山紅（キリシマツツジ）の普及と観光拡大

<新現役の会>

事業費：123,477 円

市補助金：82,000 円

目 的（背景・課題）

近年本市においても注目を浴びているキリシマツツジは、その鮮やかで強烈な紅の色は能登の人々を魅了していたが、近年まで本市では知る人もごく少なかった。

太陽の光の強い我が霧島市では、強烈な紅の色は観光客の目を引きつけると思う。

また、蛭子神社に植樹することで、花の神秘性も増し蛭子神社の物語と相互って観光客誘致にもつながる。

事 業 の 成 果

キリシマツツジの講演会及び交流会を行う中で一番多かった感想は霧島山系の鹿による荒廃が自分たちが考えている以上に進んでいる事と、ツツジの紅色の鮮やかさに感動したという点でした。また、ツツジは出来るだけ手のかからないものを植えてきたが、観光資源と考えた場合、見る人にもっと感動や物語性のある品種を植えた方がよいのでは、という意見も出された。



事 業 内 容

講演会

- ・ 第一回：平成 23 年 9 月 10 日
会場：サン・あもり 参加者数：27 名
- ・ 第二回：平成 23 年 11 月 15 日
会場：国分総合福祉センター 参加者数：28 名
- ・ 第三回：平成 24 年 2 月 12 日
会場：牧之原公民館
参加者数：24 名（ふっぎやまぼっけもんの会と交流会及びフィールドワーク）

キリシマツツジと植物多様性

講師：南谷忠志（宮崎大学講師、宮崎県文化財審議会委員、日本植物会々員、環境省希少野生植物保存推進委員）



キリシマツツジは霧島の人たちにはあまり関心がないようですが県外の人たちの間では非常に大切に扱われ特に、石川県能登地方では、天然記念物に指定のものもあるほど関心度が高く大切に扱われていることを知りました。能登キリシマのルーツは、どうやら鹿児島県の霧島連山にあるようです。新燃岳の噴火によって益々危機にさらされている希少植物群、私達は、守り育てていくべく活動を開始いたしております。この度、宮崎より南谷先生をお招きして希少野生植物について講演をしていただく機会を得ました。草、木、花、自然植物を愛する皆様方の多数のご来場をお待ち致しております。

記

★日 時 11月15日(火)／15:00～17:00
★場 所 霧島市、国分総合福祉センター会議室（霧島市民会館前） TEL0995-45-1557
★参加料 一人300円(資料代として)
★問合せ 新現役の会々員（森） TEL080-5609-3596

自己評価

1. 事業効果

あまり効果が上がらなかった。

- ・二つの民間団体が連携、協力して一つの事業を行う事は難しかった。
- ・会員の病気や親の介護のために活動が出来なかった。

2. 改善すべき課題

代表者だけでなく全体での事前の十分な話し合いがとても重要。

3. 予算執行

多少の変更があった。

キシマツツジの生息地のマップ作成を準備不足で出来なかった。

4. 今後の展望

キシマツツジの咲いている時期に今まで分かったツツジを見てまわるツアーを組みたい。

5. その他

ウィメンズ隼人の会員と鹿皮の利用拡大に取り組んでいるが、その中でキシマツツジの花を鹿皮にプリントしてみても、との案が出ている。実現すれば霧島も売り込めるし一石二鳥になる。



団体情報

〈団体名〉新現役の会

〈代表者〉森 寿恵子

〈設立日〉平成 18 年 3 月

〈会員数〉11 人

〈主な活動内容〉

平成 20 年・21 年の市民活動補助金を受け霧島市 7 か所生ごみ分別収集にこぎつけることができた。

〈連絡先〉

所在地

〒899-5102

霧島市隼人町真孝 784

TEL 0995-43-0090

霧島市民に心肺蘇生・AEDを普及する事業

<霧島心肺蘇生の会>

事業費：179,024円

市補助金：59,000円

目 的（背景・課題）

近年、突然の心停止患者に対して、傍にいた人（bystander）が、有効な心肺蘇生と必要ならAEDを使用することで生存率や社会復帰率が上がってきている。特に社会復帰できている患者は、bystanderがいた人のみであるといっても過言ではない。

心肺停止患者の蘇生・生存・社会復帰をさせるため、霧島市民に心肺蘇生・半自動除細動器（AED）の啓発と、その技術習得をしてもらう。現在、消防で同様の活動を行っているが、当会は市民に会員になってもらって主体的に手技を覚えたり、普及に努めてもらう。イベントや少人数の集まりで、短時間での講習も行う。手技を深めたい市民には、消防の3時間講習やアメリカ心臓病学会公認コースを案内する。

事業内容

各種のイベントや集まりで、心肺蘇生・半自動除細動器（AED）の宣伝、その技術習得及び救護活動を行う。

①各種イベントでの啓発と講習会の実施

開催日・イベント名・受講者数（参加会員数）

9月 3日・少年団救命講習・37名（8名）

10月29日・生協コープ祭り・15名（8名）

11月 6日・消防防災フェスタ・36名（10名）

2月12日・健康福祉祭り・44名（4名）

計132名（30名）

②各種イベントでの救護活動

7月16日・国分夏祭り・3名（5名）

7月17日・国分夏祭り・3名（3名）

11月19日・森で過ごす癒し霧島・0名（1名）

2月12日・初午祭・1名（4名）

2月12日・永水地区歩こう会・5名（5名）

3月18日・龍馬ハネムーンウォーク・0名（5名）

3月19日・龍馬ハネムーンウォーク・5名（10名）

計17名（33名）

③講演会の主催

3月31日・主催講演会・40名（16名）

事業の成果

新しい試みとして、スポーツ少年団の指導者及び小学校高学年の生徒を対象に救命講習会を開催しました。野球の少年団であり、ボールが胸に当たり心停止になるケースが全国的に見受けられるため、その点について、AEDの重要性を説明したり、実際に親子で実技をやった結果、子どもたちも一様に真面目に取り組んでもらい、教えがいのある講習となりました。また、父兄からは野球大会時に、救命のパフレット等を配布したいとの声を戴き感激した次第でありました。

救護活動にありましては、昨年同様のイベントに参加し、12名の救護を行いました。内容は、発熱及び靴ずれ、気分不良、擦り傷等でありました。

講演会については、昨年から引き続き2回目の開催でした。聴講者は40名でした。本年のメインタイトルが「あなたはAED使えますか」で、実際に救命された方や応急手当を施した方の体験談や市内学校でのAEDに関する取組等ご講話戴きました。今回は学校の先生方や老人福祉施設の職員の方々を受講対象に絞り込み、講演会を開催しました。対象を限定した理由としまして、心肺停止傷病者に遭遇する機会が多いと思慮される方々を選択しました。

ホタルの散歩道整備事業

<駅前ホタル会>

事業費：452,050円

市補助金：300,000円

目的（背景・課題）

現代において、利便性の追求が自然と人工のバランスを崩し、かつての美しい日本の原風景は失われつつあります。それと同時に生命の素晴らしさとはかなさを学ぶ機会も減り、そのことが広く日本の社会問題にも反映されてるように思われます。日本の将来を担う子どもたちにとっても、美しい自然を守っていく必要性を学ぶ機会が不可欠です。

本事業は、ホタルを通して多くの方々に自然の素晴らしさと環境保全の必要性を訴えるとともに、地域の活性化を図ることのできる環境を整備することを目的とします。

事業内容

平成23年9月26日

第1回勉強会を行いました。

鹿児島県ほたるを育てる会の上野武次氏に講師を依頼し、会員4名がホタルの生態について学びました。

平成24年1月22、29日

水路廻りの草刈りと清掃を行いました。

会員、地元住民、延べ18名が参加しました。

平成24年2月10、11、12、17、18、19、20日
新しい水路・池を整備しました。

会員、地元住民、延べ24名が参加しました。

平成24年2月19日

第2回勉強会を行いました。

鹿児島県ほたるを育てる会の上野武次氏に講師を依頼し、会員7名がホタルのガイドについて学びました。

平成24年2月29日

見学者に配布するパンフレットが完成しま

した。

平成24年2月29日

ホタルの散歩道の看板が完成しました。



事業の成果

1. ビオトープとなる水路、池を整備しました。これにより、今後ホタルの生息域と発生数を増やすことができると思います。
2. 草刈り作業や造成作業など、今回の事業を行うことにより、会員相互の協調性も高まりました。また、会員以外の地域の方々にも駅前ホタル会の活動を知ってもらうことができました。
3. ホタルの生態について勉強会を行い、ホタルについての知識を深めることができました。
4. パンフレットと看板を作成しました。これにより、多くの方にホタルの生態と駅前ホタル会の活動を知って頂けるとと思います。
5. 昨年度は、多くの方にホタルを観ていただき、環境保護の必要性を訴えることができました。また、地元のホテル・旅館からも宿泊客がマイクロバスで「ホタルの散歩道」へホタルを観に来られました。中には、毎年楽しみにしているという方や、来年も来たいという方もおり、地域の観光業や活性化に貢献していることを確認できました。今回の整備事業で更に効果が高まることを期待し

ます。

6. 事業終了後にホタルを観られる時期を迎えていませんので、効果の検証をできない部分もありますが、今後の活動の中で目的を達成できるよう努めていきます。

自 己 評 価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。

2. 改善すべき課題

計画したスケジュール通りの実施ができなかったため、今後はしっかりとしたスケジュールの計画と会員への通知、実施を行います。

3. 予算執行

多少の変更があった。

全体的には予算額に近い決算となりましたが、各項目において増減がありました。具体的には、草刈り、整備工事において当初計画より日数がかかったこと、重機リース代が見積りより安くなったことなどが挙げられます。

4. 今後の展望

多くの方がホタル鑑賞を楽しめるように、引き続きホタルの散歩道の整備を行い、地域活性化へ貢献し、環境保全の必要性を訴えていきます。また、地域住民、子どもたちと一緒にできる取り組みを行って行きたいと思います。

5. その他

改めて「駅前ホタル会」と「ホタルの散歩道」の必要性を認識しました。今後も自信と誇りを持って活動して行きたいと思います。



団 体 情 報

〈団体名〉 駅前ホタル会

〈代表者〉 前田 博志

〈設立日〉 平成 15 年 9 月 6 日

〈会員数〉 21 人

〈主な活動内容〉

ホタル・カワニナの観察・育成

環境保全・整備（草刈、水路の清掃など）

ホタル観賞のガイド（ホタルの生態の説明、交通整理など）

ホタル観賞のための整備（水路転落防止柵、足下灯、看板の設置等）

いきいきサロン（地域の高齢者のための昼食会）

〈連絡先〉

所在地 〒899-6507

霧島市牧園町宿窪田 315

TEL 0995-76-2315

平成 23 年度 霧 島 市 市 民 活 動 支 援 事 業 募 集 要 項 (抜粋)

1 趣旨

近年、市民ニーズが複雑・多様化している中で、さまざまな市民グループが地域の課題の解決やよりよい市民生活の実現のために、自主的・自立的に活動を行われています。このような市民グループが行う公益的(公共的)な活動に対して、その経費の一部を補助することにより、市民活動を促進し、共生・協働のまちづくりを進めるために、平成 20 年度から実施。

2 応募できる団体

ボランティア団体、NPO 法人などの市民グループ（法人格の有無は問いません）
（主たる構成員が市内在住者等で、5 人以上の団体。地区自治公民館・自治会は対象外）

3 補助対象となる事業

公益的(公共的)なサービスを提供する市民グループの活動
（これまでの活動を拡充する活動、新たに実施する活動）

4 補助額

補助対象経費の 3 分の 2 以内で、50 万円を限度とし、同一事業の補助申請は 3 回まで。

5 補助の対象となる経費

事業を実施するために直接必要とする経費

6 審査・選考方法

書類審査とプレゼンテーション(事業計画発表)による選考審査会を開催し、決定。

7 審査基準

(1) 公益性

事業の効果が、特定の者に限定されず、地域社会にひろく貢献するものであるか。

(2) 地域社会における必要性（課題解決性）

地域社会の課題を的確に捉え、また、市民ニーズに対応し、その解決策として有効か。

(3) 先駆性・創造性

応募団体の既存事業を発展・拡充するもの又は新たに実施するものであるか。また、迅速性・専門性など特性を活かしたものであるか。

(4) 実現性

事業計画や実施体制は、具体的で実現可能なものであるか。

(5) 将来性

活動・効果が一過性でなく継続性が期待できるか。また、広く波及効果が期待できるか。

8 事業スケジュール

平成 23 年 5 月 16 日	募集期限
6 月 24 日	書類審査（一次審査）
7 月 4 日	プレゼンテーション審査（二次審査）
7 月中旬	選考結果発表
7 月～翌年 2 月末	事業実施
平成 24 年 5 月 11 日	意見交換会（事業成果報告会）

9 情報公開

応募状況、選考結果等について、市のホームページ等で公開します。

平成 23 年度 霧島市市民活動支援事業 応募・採択内訳

1 選考審査の結果

区 分	応 募	採 択
団 体 数	19 団体	17 団体
N P O 法 人	6 団体	6 団体
その他の団体	13 団体	11 団体
事 業 数	19 事業	17 事業
補 助 希 望 額	5,188,500 円	4,264,000 円

2 分野別内訳

分 野 別	応 募	採 択
保健・医療・福祉	2	2
人権擁護・平和	1	1
まちづくり	6	4
学術・文化・芸術・スポーツ	1	1
環境保全	6	6
子どもの健全育成	3	3
合 計	19	17

平成 23 年度 霧島市市民活動支援事業 実施結果

	分 野	団 体 名	事 業 名	事 業 概 要	補助額 (円)
1	人権擁護・平和	特定非営利活動法人『人権を守る会かごしま』	人権教育・啓発事業	社会の中で存在するあらゆる差別を解消し、差別なく尊敬しあう関係の構築に向けて、広く市民とともに未解決の人権問題について考えるための「人権フェスティバル 2011」を開催する。	140,000
2	環境保全	水の会	竹山ダム周辺の環境整備と文化活動	文化活動の実践道場として造成した「竹山・水辺の里」の環境整備を更に進めながら、「水に感謝するタベ」を開催するなど、水への理解・感謝を深める。	140,000
3	環境保全	特定非営利活動法人 NPO しきね	美しい湧水の郷再生事業	敷根地区の生活雑排水による汚染の実態調査とこれまでの調査結果に基づいて水質の浄化に取り組み、子どもたちの環境問題学習や住民の環境問題への意識改革に取り組む。	事業中止
4	環境保全	霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会	霧島連山登山環境整備事業	より多くの人に霧島連山の自然に親しみ、自然の大切さを再認識してもらうため、登山リーダーの後継者育成や登山道整備など登山環境の整備に取り組む。	150,000
5	まちづくり	日当山会	日当山駅近辺の整備計画による日当山温泉の活性化事業	日当山駅近辺の整備計画に基づき、環境美化活動や観光マップの改訂、イベントの開催などの活動を行って、日当山のすばらしさを発信し、この地域の活性化を図る。	100,000
6	子どもの健全育成	特定非営利活動法人霧島食育研究会	霧島食育サポーター養成講座～「すがめちゃん食育プログラムの開発と実証」～	霧島の食文化、食生活事情に配慮した食育教材を開発するとともに、市民を対象に食育リーダーの養成講座を行い、一般市民及び若者への食に対する意識と行動の変化を促し、さらに在住地や職場・学校等での食育活動の活性化を促進させる。	500,000
7	子どもの健全育成	きりしま・国分子ども劇場	子どもフェスティバル～あそぼう！ つくろう！～	子どもたちに、あそびのワークショップを通じて仲間と遊ぶ楽しさや工夫から遊びが広がることを実感したり、生の芸術に触れる機会をつくるため、子どもフェスティバルを開催する。	132,000
8	環境保全	清水ほたる愛好会	「清水ほたるの杜」再生事業	源氏ホタルの生態系を、大人から子どもまで学習でき、市民の癒しの場となるよう、「清水ほたるの杜」の再生を目指す。	100,000
9	環境保全	特定非営利活動法人霧島サンバイオ	バイオマス資源としての竹利活用事業化プロジェクト	霧島市バイオマスタウン構想にのっとり、竹を地域の資源として利活用するための調査・研究を行う。	246,000
10	子どもの健全育成	特定非営利活動法人霧島自然菜園倶楽部	山里遊びプロジェクト～森・土・水は仲良し～	有機農法体験を通して、森・土・水の繋がりと自然の大切さを学び、収穫の喜びも遊びの中から体感することにより、安全な農業、健康な食生活へ導く手助けとなり、市民の健康へ繋がっていく。	500,000
11	保健・医療・福祉	ニコニコ会	高齢過疎地域におけるIT活用のいきいきネットワークづくり事業	住民主体のインターネット・ITを活用したネットワークを作り、地域の活性化を図るとともに、災害時要援護者の支援等を含めた無縁社会の解消を試みる。	500,000

	分 野	団 体 名	事 業 名	事 業 概 要	補助額 (円)
12	まちづくり	よもぎの会	霧島ふるさと再発見事業	古くから清水地区に伝承されている食材の製法を各種のイベントで実演することで、地域の食文化を後世に伝え残し、霧島市内に広めるとともに、ゴキブリ団子等の作り方を学校や公民会にも広め、地域の環境改善に役立てていく。	150,000
13	まちづくり	エコミュージアム福山	福山まるごと博物館	歴史・自然・文化などを地域遺産・資源を総合的に学び・守り・伝え・活かすことを通して地域の活性化を図るエコミュージアム理念を土台として、福山の特性を活かしたまちづくりを進め、地元の魅力を引き出し、福山を元気にしたい。	369,000
14	学術・文化・芸術・スポーツ	特定非営利活動法人 隼人シニアネットきずな	互いに楽しく支え合う まちづくりに関する事業	平成12年に復活した伝統行事である「浜下り」を実施し、これに参加することで地域のきずなが生まれ、世代間交流や青少年の健全育成が図られるとともに、高齢者の健康増進や生きがい対策にもつながる。	500,000
15	まちづくり	新現役の会	映山紅(キシマツツジ)の普及と観光の拡大	霧島の宝でありながら地元では忘れられていた映山紅キシマツツジを、霧島連山希少植物保全調査会と連携して、市民に宣伝・啓発活動を行い、その魅力を伝えていきたい。	82,000
16	保健・医療・福祉	霧島心肺蘇生の会	霧島市民に心肺蘇生・AEDを普及する事業	心肺停止患者の蘇生・生存・社会復帰をさせるため、市民に対して心肺蘇生・半自動除細動器(AED)の啓発を行い、講習会を開催する。	59,000
17	環境保全	駅前ホテル会	ホテルの散歩道整備事業	霧島温泉駅前地域に生息するホテルを保護・育成し、水路やビオトープ、また周辺の整備を行い、より多くの市民に自然の素晴らしさと環境保全の必要性を訴えていく。	300,000
合 計					3,968,000

平成 23 年度
霧島市市民活動支援事業成果報告書

平成 24 年 6 月

霧島市役所 企画部 共生協働推進課

〒899-4394 霧島市国分中央三丁目 45 番 1 号

T E L 0995-64-0988 (直通)

F A X 0995-47-2522

E-mail kyodo@city-kirishima.jp